



舟からの景色を楽しむイベント

「きゃんせ海津・早春編」実施

3月1日、早春の海津・琵琶湖の景色などを、湖から観光していただくイベント「きゃんせ海津・早春編」を実施しました。

海津の散策、少し雪が残る山と海津の石積みを眺める湖上遊覧、そして、『琵琶湖の幸』

満載の昼食に、参加者の皆さんそれぞれに、この早春のマキノの良さを感じていただけたと確信しています。

今回の企画は地元民宿にご協力をいただいて、午前・午後の2回の湖上遊覧を実施しました。



右 酒蔵見学
上 湖上遊覧の様子



琵琶湖の幸 満載の郷土料理を提供 (上・右・下)



下 湖岸の散策
右 日本酒の試飲風景



町家改修の取り組み

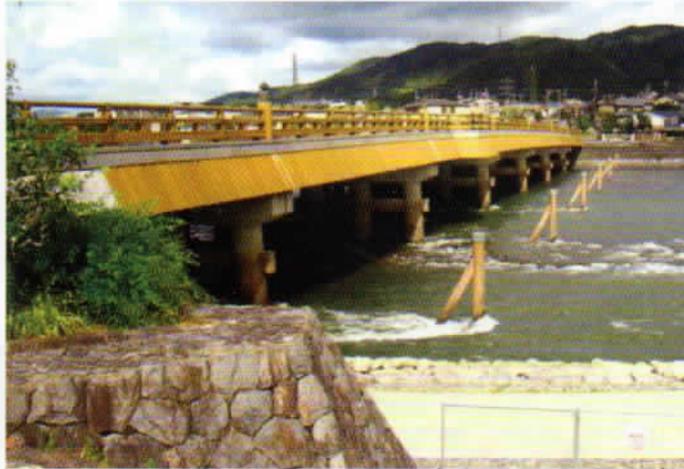
宇治市の場合

10月16日「重要文化景観保護推進事業」の研修のため宇治市へ行ってきました。こちらは「宇治川の自然景観を骨格に、平安時代以来の歴史や文化が重層的に残され、宇治茶の伝統的な生業が息づく個性的な景観地」として、平成21年2月に重要文化的景観に選定されました。これをうけて市は「急速な建物の高層化と都市化の抑制」に動くとともに、文化的景観の構成要素となる建物には国からの補助金を、それ以外のものには市の公的助成をつけて古くなった町屋の修繕や修景事業を行っておられます。また、地元の建築士さんのグループが市と町屋の所有者さんを仲立ちし、空き屋となった建物を修繕することで文化的価値を高め、そこに住んでもらうという経済的な効果や、具体的なビジネスに結び付けるという活動を行っておられます。コンパクトにおさまった地域に、宇治川や平等院、お茶商をはじめとする古い町屋群があり、人口が18万人強、なおかつ観光のメッカ京都から電車で30分というロケーションはうらやましいかぎり。同じようなまちづくりは望むべくもありませんが、そのエッセンスだけでも見聞できたのは収穫でした。

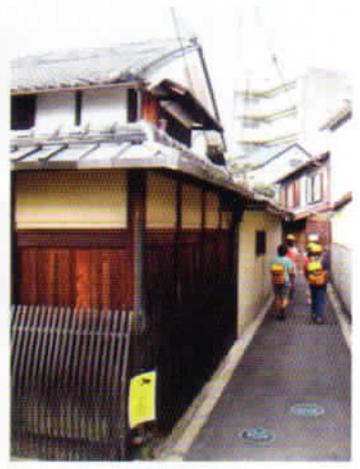
(研修担当) 吉田肇



宇治橋通り(メインストリート)



源氏物語の舞台にもなった宇治川、宇治橋



路地の風景



元製茶工場を改造したカフェの内部



中村藤吉本店 明治・大正期の大規模な茶問屋の建物。重要文化的景観の構成要素として補助金を受け建物を改造中お茶を切り口にしたスイーツをはじめとする物販とカフェを併設しておられます

町歩きイベント「きゃんせ海津」実施

正面玄関をめけると物販コーナーをへて中庭へ。奥は元製茶工場今では改造してカフェを営業中。松は、「宝船」に見立てて剪定してあります



川添定・景観文化財館——海津・西原・堀内の水辺景観
古き街町の風景をたどる、楽しいまち歩きイベント

きゃんせ海津

11/4 10:00~16:00

高島町でキノコ/海津・西原・堀内一帯

●お茶の産地を巡る
●お茶の産地を巡る
●お茶の産地を巡る

お客様各位 To All Customers

Welcome Thank you very much coming to Nakamura Toku Honen. Please fill in the req information on the form on th and wait to be seated.

At busy times, customers in groups are seated separately. Also, if you are not here w call your name, you may be at the end of the mesa. At busy times, reception may be closed ear the scheduled time. Please be forewarned

各位顾客 各位顧客

欢迎光临 非常感谢您惠临 中村藤吉本店。 请填妥表格并等候入座。 繁忙时段，团体客人将分开就座。另外，如果您不在，我们可能会叫您的名字。 繁忙时段，接待可能会在预定时间前结束。请留意。



当日のイベントちらし

レジ横には3カ国でご案内!

通り沿いの建物

鮎寿しを海津で造り続ける

魚治の屋号は、天明4年(1784)に創業した、初代魚屋治右衛門からきています。名の通り、海津湊にて魚を扱い、商いをしてきました。冷蔵庫のない時代、鮮魚ではさばききれない魚は、佃煮・鮎寿しなどに加工し、日持ちさせました。中でも鮎寿しは蔵持ちの乳酸菌が造る物で、代々伝わる造り方・熟成方法を今も守り受け継いでいます。

海津の町は、石積み町として知られています。私の家も湖岸近くの街道沿いにありますが、下水道が出来る前、生活排水は琵琶湖へ直接流されずに、一度山手の街中を通り、内湖や堀に流されました。汚れた水は水路を巡る間に浄化され琵琶湖に流れる時にはきれいになる仕組みがあり、そこには、湖の恵みをいただくことへの感謝の気持がありました。

今も石積みの上から見る琵琶湖は変わらぬ景色を見せてくれます。これらは石を積み琵琶湖のそばで自然と共に生きてきた海津の人々が守ってきた里山の風景です。その恵みをいただくより身近にいる者として、自身のものづくりを通じて、多くの人々に琵琶湖の豊かさや海津の風土を伝えていければと思っています。

魚治 湖里庵

七代治右衛門 左寄謙祐

海津 & 琵琶湖に生きる 若者達



(写真上・下 (有)魚治 提供)

命の連鎖を忘れないで欲しい

僕は海津の漁師、琵琶湖の力で育った魚達のおかげで日々生活をさせてもらっています。毎日毎日親父とオカンと漁に出て、小さな小鮎を追いかけます。沢山捕れる日もあれば、ダメな日もある。沢山捕れる年があれば、ダメな年もある。でも自然の力で育った小さな魚達のおかげで僕達は生きています。スーパーでお金を出せばどの魚でも買えるのが今のこの世の中。

・おうちで食べる時に、その魚を捕ってくる漁師がいる事を忘れないでほしい。
 ・その魚を捕まえる漁師が魚の命をもらって生活している事を忘れないでほしい。
 ・その漁師が魚に、自然に、感謝の気持ちを持っていてる事を忘れないでほしい。
 ・その魚を食べる時に「いただきます」の気持ちを忘れないでほしい。
 ・そして、琵琶湖という閉鎖水域に今なお沢山の魚がいて、とつても美味しく食べられます！京都で湖魚を食べる会(僕が捕ってきた湖魚のみ)を開催したら満員御礼で僕は最後まで立ってました(笑)いつ何処で捕れたのか分からない冷凍のマグロより、目の前の琵琶湖で朝水揚げされる魚をその日によばれる、最高の贅沢じゃないですか！昔はそれが当たり前。いつしかそれが当たり前ではなくなりました。このくそ寒い雪の降る夜中でも漁に出ています。夜中に漁船のエンジンが煩くてごめんさいね(笑)目の前に有る沢山の恵みを与えてくれる琵琶湖。この水を今も1450万人が必要としています。もう一度見直してほしい。琵琶湖に流れ込む水やそこにいる湖魚の事。そして琵琶湖の漁師一千人の想い。



湖魚漁師 中村 清作 (写真上・右中村さん提供)

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会 S25 活動報告

- 平成25年 6月28日(金) facebookページに参加。https://www.facebook.com/kaizu.ishizumi (石積みのまちでクリック)
- 平成25年 6月30日(日) 重要文化的景観区域清掃活動(びわこ一斉清掃に合わせた湖岸一体の清掃活動)
- 平成25年10月16日(日) 重要文化的景観選定地域先進地研修(宇治の文化的景観・京都府)フォトアルバム記事参照
- 平成25年11月 4日(月) 「きゃんせ海津～石積みの町を歩く～」の開催
- 平成25年12月 1日(日) 重要文化的景観区域清掃活動(県下一斉清掃に合わせた湖岸一体の清掃活動)
- 平成26年 3月 1日(土) 「きゃんせ海津～早春篇～」の開催 フォトアルバム記事参照
- 平成26年 3月30日(日) (海津西浜知内の水辺景観)重要文化的景観区域選定の日(3/28)に合わせた清掃活動

石積みのまち/国指定・重要文化的景観 海津・西浜・知内の水辺景観の facebook 作りました <https://www.facebook.com/kaizu.ishizumi> (石積みのまちでクリック)



海津西浜知内の重要文化的景観とは

海津・西浜・知内地域は、平成17年、文化庁から「重要文化的景観」の選定を受けました。

◇室町から江戸期にかけての海運商業都市としての面影

◇1・2キロに及ぶ湖岸の石積みや往時をほうふつとさせる町屋、

◇昭和初期の繁栄の面影である、船着場の棧橋の跡、三羊館の写真のコレクション。

◇「イケ」や「ハシイタ」に代表される、市井の人と水との関わりが形となって今も残っている（守り続けている）その姿。

◇知内川のヤナや琵琶湖のエリ、そしてその水産物の加工業の佃煮などが、現に今も生業としてある。



湖岸の「はしいた」



湖への路地「づし」



知内川のヤナ

◇集落に近接した内湖が、埋め立てられず、自然のまま残っている

◇琵琶湖という日本一の湖にある淡水湖の砂浜（砂浜のある湖自体、日本では琵琶湖特有のこと）

◇内湖や琵琶湖岸に自然に生きたる植物群

◇内湖や琵琶湖に生きる、琵琶湖固有種も多い魚類

それら全てが、海津西浜知内という小さい地域にまとまって残っている、また見ることが出来る、それは全国のみても貴重だということが選定の理由だそうです。

そしてそれらは、現在の環境に、色々な意味で負荷をかけている生活とは異なった、昔の自然と共存した生活の全体像をイメージさせることも出来るそうです。（当時としてはそれは、仕方なくかもしれないが）

この地域が、歴史と文化に育まれ、豊かで住みよい町で今後もあり続けるために、全国的に見ても貴重なこの地域を、もう一度地域の皆さんと共に見なおしてみよう。そして、そんな素晴らしい場所であることを、多くの方に知って頂こう。そういう趣旨で

大事に！きれいに！賑やかに！

をキャッチフレーズに、本協議会は活動しています。

今後とも、その趣旨に賛同いただき、活発な意見や協力などを協議会の方へいただければ幸いです。

また、継続的な美化活動事業にご協力ありがとうございます。

編集後記

今回の「いしづみ便り」では、地元の海津・西浜・知内重要文化的景観の礎となっている、琵琶湖という環境に深く根ざして生業を営んでおられる、次代を担う若い方お2人をご紹介しました。そして、今年度の活動をフォトアルバムで紹介しました。また昨年は、フェイスブックページに登録して、この地域の水や自然の恵み、また本会の活動などの発信しています。今後とも、本会活動に、ご理解とご協力をよろしく願います。
（広報担当 本田明）

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会
事務局

滋賀県高島市マキノ町西浜1209-8

マキノまちづくりネットワークセンター内

TEL 0740-2818002

FAX 0740-201024

MAIL machinet@ex.bw.dream.jp



海津湖岸の石積み